チャレンジ精神を

歯学部長　岡　本　　莫

新入生諸君，入学おめでとう。

念願の歯学部へ入学を許可され，今その達成感とこれからの大学生活への大きな期待に胸いっぱいで，喜びに満ちあふれていることと思う。諸君は小学校入学以来何度か「おめでとう」と祝福されてきたが，その回数が増すにつれて，まわりからの期待も増し，自分の責任が重くなってきたことをまず自覚していただきたい。

本日，諸君は歯科医師になるための出発点に立った。一人前の信頼される歯科医師になるには，これからいくつものハードルを乗り越えて10数年，いや，もっと多くの年月が必要であろう。しかし，何も慌てることはない。まず隗より始めよだ。とりあえず，大学時代，それも特にこの2年間の歯進課程をいかに過ごすか，自分はどのように大学とかかわるかなど，今は自分の位置づけについて考えていただきたい。

大学というところは，もともと自分の人生生活をより充実したものにするため，ものを考える基礎を教えてくれるところであって，そこで学ぶことは，自ら問い，自ら考え，自ら応ずる態度を養う，言いかえると常に問題意識をもって主体的に学習するということである。正に論語の「学びて思わざれば，則ちくらし。思いて学ばざれば，則ちあやうし」である。

この問題意識はものごとを積極的にとらえる考え方から生まれる。以前つぎのような話を聞いた。2人のセールスマンがいた。アフリカへ靴のセールスに行った。行ってみると，みんなハダシである。1人のセールスマンは，「ゲンチヘキタ。ミンナハダシ，アスカエル」と電報を打った。もう1人も電報を打った。「ゲンチヘキタ。ミンナハダシ，トリアエズ1マンソクオクレ」。一万足送ってもらってセールスしてみたら，一足も売れないかも知れない。しかし，靴屋さんにとって，いま目にしているみんながハダシであるということは，無限の可能性を持つということである。その可能性にチャレンジする。そのとき，問題意識が生まれる。

最近の若者の気質に「そつがない」，「頼りがない」，「覇気がない」の三無がいわれている。このうち「そつがない」は情報化，合理性が叫ばれている今の時勢ではまず結構。次の「頼りがない」は過保護の家庭の中で育ち，人生経験も浅いので，当然でやむを得ない。これから年とともに頼りがいが身につくものと信じたい。しかし，最後の「覇気がない」，これはいけない。諸君の魅力は物事にとらわれず，勢いがあることだ。覇気がなければ若者ではない。

チャレンジ精神はこの覇気から生まれる。これをおう盛にするには，失敗を恐れない気持ちが必要だ。若い時は失敗したって大したことではない。また，失敗しないと判断力は生まれないし，失敗体験の量と質に比例して人間はつくられるといわれる。

これからの6年間，身体的にも，精神的にも充実した日々を過ごし，やがて人間味あふれる歯科医師になることを祈念してやまない。